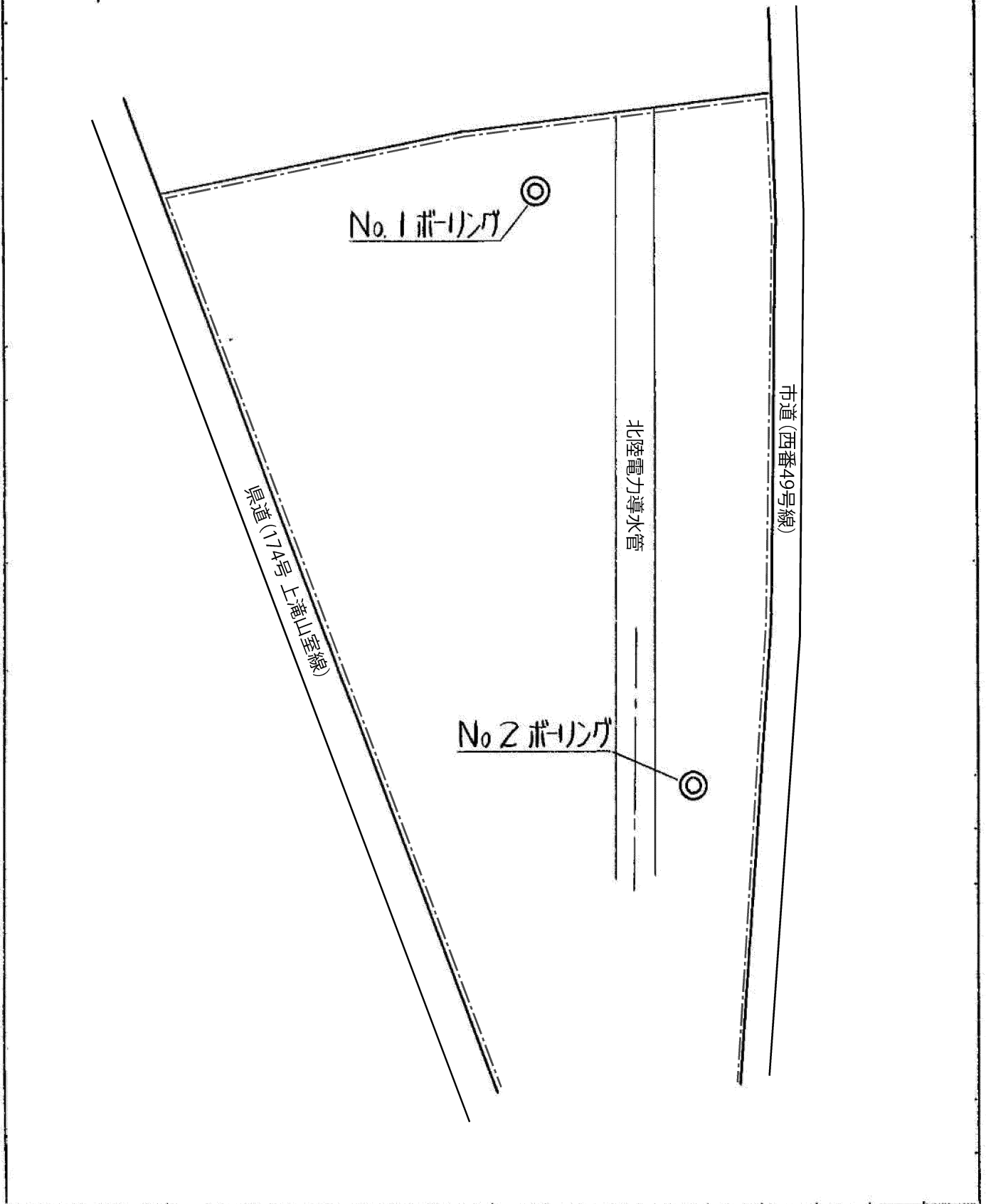


オ 1 図
富山市営斎場ボーリング位置図
富山市西の街地内
縮尺 1/1000



第 2 図

1号ボーリング地質柱状図

調査名 富山市営有線ボーリング工事
 調査地 富山市西の国地内
 調査期 41年4月10日 ~ 41年4月21日
 掘削深度 5.20 m

標尺 高度	層厚	地質 柱状図	地質記		試料 採取 深度	標準 貫入 試験 結果 %	標準貫入試験記事					
			地質	色			観察記事	掘進	工程	記事		
90	90		表土	暗褐色	0.00-0.25 軟い、水田土 に深砂を含みかなり締る	1	N値					
					1.50で全透水ある	2						
					礫径最大30cm以上の 巨礫を含む 礫は円礫 全般的に礫径大きく 礫量 も多い よく締っている	3						
				砂 礫 灰	崩れはあまりないが 堤道 中一部の巨礫は残る 排水90%前後	4						
					5.50-6.00 一時的に全 透水ある(所あり).	5						
					礫径最大20cm前後 巨礫は少くなるが 礫量は 多い	6						
					廻りに帯灰色の砂(5cm) をはさむ よく締っており崩 れは殆どない 礫量は多い	7						
					礫量やや少くなる 全層を通過して透水あり、一時的 に全透水(所あり) 崩れ僅かにあり	8						
					礫径最大10cm前後とある	9						
					礫径少くより 礫径も最大 10cm前後とある	10						
					第 灰 1800 附近より 砂20cm と礫30cm程度の互層 とある 透水 崩壊なし	11						
20	2030					12						

第 3 図
2号ボーリング地質柱状図

調査名	富山市営商場ボーリング工事
調査地	富山市西の田地内
調査月日	41年4月9日～ 年4月13日
地下水位	GL

標尺	深 度	層 厚	地 質 柱 状 図	地 質 記 事		試 料 番 号	試 料 深 度	標準貫入	試 験 記 事				
				地 質	色 観 察 記 事				掘 進 工 程 記 事				
	20	20		赤 土	田の床土	1			10	20	30	40	
				砂 礫 灰	非常によく締つた砂礫片 で透水 崩壊は殆んどな し。	2							
					礫径最大 30cm程度 花崗岩 片麻岩 安山岩の 礫が多い。	3							
							4						
							5						
5	500				500付近にて全透水あり								

第 1 表

標準貫入試験打込記録

1号ボーリング

検査名 富山市営斎場ボ-リング工事 検査地 富山市西の番地内

打込深度(m)	打 込 記 録					試 料 番 号	備 考
	0 ~ 10cm	10 ~ 20cm	20 ~ 30cm	N/1cm	N/30		
~	非常によく締つた玉石を含む砂礫層のため貫入試験実施不能						
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							
~							

第 2 表

標準貫入試験打込記録

2号ボーリング

検査名 富山市営斎場ボーリング工事

検査地 富山市西の番地内

打込深度 (m)	打 込 記 録			N 値		試 料 番 号	備 考	
	0. ~ 10cm	10 ~ 20cm	20 ~ 30cm	N/cm	N/30			
~	非常によくしまつた砂礫層のため貫入試験実施不能							
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								
~								

第 3 表

調査期間 昭和41年4月14日～4月21日		調査地名 富山市岩倉ポリング工事		地層調査		試験一覧表		標高 m		標高 m	
標高 m	深度 m	層厚 m	柱状図	地質	質色	観察記事	相対密度	相対稠度	標本番号	採取方法	採取深度 m
90	90	90		赤土	暗褐色	硬弱土の0.0M以上 上の目録を参照 全的に硬弱土に 成層もよく分 つてくる	相対密度 相対稠度	相対稠度	1	CT	0
				砂	灰	所に赤灰土の成層 を認め 硬弱は硬い			2	"	
						硬弱土が少く 成層もよく分 つてくる			3	"	
									4	"	
									5	"	
									6	"	
									7	"	
									8	"	
									9	"	
									10	"	
									11	"	
									12	"	

第 4 表

調査期間 昭和41年4月9日～4月13日		地 層 調査		試験一覧表 No. 2		標 高 m	
調査地名 富山市営斎場ボリング工事		地 質 色		採取試料標準番号		標高 m	
調査深度 層厚		地 状 函		採取方法		標準器入	
m		m		m		m	
0	20	砂 礫	灰	1	CT	0	50
5	500			2	"		
				3	"		
				4	"		
				5	"		

I ま え が き

富山市の依頼により市営斎場予定地のボーリング工事を実施したためその結果を報告します
敷地の富山市西の番一帯は常願寺川扇状地に位置し 地質的には沖積尺の河床泥濘堆積物からなっていると予想される
敷地内の地盤地尺の変化及び土層の状態 強度を調査するため
鉋研式KS-4型試錐機により 4月9日~21日の間深度20m
及び5mの調査ボーリングを行い 原位置試験として標準貫入試験を実施した

II 調 査 の 経 過

各ボーリングの掘さく状況と経過については

1 号ボーリング 深度 20m 口径 85~65mm

地表から0.90mまでの表土は水田の床土で 0.25mまでは軟いが以深は砂を含めかなり締まっている

0.90mより最終深度20.30mまでは砂礫尺となる

0.90~6.00mは最大30cm程度の巨礫を含み全般的に礫量も多く部分的に全透水する所もあるが崩壊はあまりなくよく締まっている

6.00~18.00m 上部は礫径も礫量も大であるが下部になるにしたがって礫径は若干小さくなり礫量も少くなる礫は硬く崩壊僅かにある

18.00m以深は 砂20cm 礫30cm 程度の互尺状を呈する

が透水崩壊はない

掘さく時の地下水位は低く520mを観測している

2号ボーリング 深度5m 口径85~65mm

地表から020mまでの表土は田の床土である

020mから最終深度の5mまでは砂礫層であるが礫径最大30cm程度のものが多く非常によく締っており崩壊透水は殆んどない。500m付近で全透水するが掘さく当時の地下水位は非常に低く確認できなかつた

III 標準貫入試験

軟地内の地盤は表土を除けば全て砂礫層であり、又この砂礫層は玉石を含む非常によく締つたもので当初予定した標準貫入試験並びに土質試験を実施する必要は全くなかつた

IV 地盤の支持力

ボーリング工事の結果表土を除く砂礫層は50以上のN値を有することは容易に考えられ、この場合本軟地内地盤の許容支持力は $70\frac{t}{m^2}$ 以上と想定することは全く危険とは思はれない